環境保全

○環境会計

当社では、効率的な環境保全活動の取り組みとその取り組み状況の透明性を高めることを目的に「環境会計」を実施しています。

2016年度は、地球環境保全への対策として、新ボイラーへの更新や工場使用蒸気圧の低圧化、パルプ新規解砕設備など、環境投資全体の約65%となる約8億円を投資しました。また、全投資額に対する環境目的投資の割合は、省エネルギーに係わる当面の大型投資が一巡したことで5%（昨年度17%）となりましたが、研究会開発活動においては、省エネルギー・省資源に寄与する新反応プロセスの検証パイロット設備の設置など、前年度より約1億円増加しました。

環境保全対策に伴う経済効果においては、省エネルギーに係わる設備投資による費用削減が、昨年度の3億円に対して約17億円に増加しました。

今後も環境会計の適切な把握を行い、環境保全を推進していきます。

集計期間： 2016年4月～2017年3月
集計方法： 環境省発行の「環境会計ガイドライン2005年版」、一般社団法人 日本化学工業協会の「化学企業のための環境会計ガイドライン」に準拠して算出
投 資 額： 2016年度の環境保全に関する設備の投資実績
費 用 額： 環境保全に関する設備の減価償却費・設備維持管理費・人件費などの実績値
環境保全対策に伴う経済効果： 実質的効果のみとし、リスク回避効果やみなし効果は含まない。経済効果のエネルギー費用の削減効果については、実施した省エネルギー対策の12カ月間にわたるエネルギー費用の削減効果を計上した。

環境保全コスト

分　類		主な取り組みの内容	投資額（百万円）	費用額（百万円）
生産・サービス活動により事業エリア内で生じる環境負荷を抑制するための環境保全コスト（事業エリア内コスト）			882	5,728
内訳	公害防止コスト	大気・水質の汚染防止、有害物質の排出抑制、公害健康被害賦課金	61	1,937
内訳	地球環境保全コスト	新ボイラーへの更新、工場使用蒸気の低圧化、パルプ新規解砕設備等	767	1,987
内訳	資源循環コスト	産業廃棄物の適正処理・処分	54	1,804
生産・サービス活動に伴って上流または下流で生じる環境負荷を抑制するためのコスト（上・下流コスト）		容器包装リサイクル負担、グリーン購入	0	291
管理活動における環境保全コスト（管理活動コスト）		環境管理人件費、環境マネジメントシステム運用・維持経費、環境教育費用、環境負荷対策費	0	586
研究開発活動における環境保全コスト（研究開発コスト）		製品・製造工程環境負荷低減テーマでの研究開発	304	238
社会活動における環境保全コスト（社会活動コスト）		緑化・美化などの環境改善活動、地域行事参加、会費	2	32
環境損傷に対するコスト（環境損傷コスト）		自然修復費用、環境保全に係わる環境損傷に対するコスト（環境損傷コスト）自然修復費用、環境保全に関わる損害賠償費用等	0	3
合　計			1,188	6,878

項　目	金額（百万円）	環境比率（%）
当該期間の設備投資額	21,862	5.4%
当該期間の研究開発費	12,321	1.9%

環境保全対策に伴う経済効果 —実質的効果—

項　目	金額（百万円）
省エネルギーによる費用削減	1,673
省資源による費用削減	228
再資源化により得られた収益	459
廃棄物処理費用削減	48
合　計	2,408